

## 「小田原市学区審議会」の開催について

### 1 経緯

本市教育委員会では、少子化等により小田原市立片浦中学校の生徒数が減少していることから、地域住民の代表や保護者等からなる「小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会」今年1月に設置し、片浦地区の保護者等の意見を集約してきました。8月には、当委員会から提言書が教育委員会に提出されました。

提出された提言書の内容を尊重するとともに、子どもの教育的効果等を鑑みて、片浦中学校の統合を前提とした片浦地区の中学校区の変更について審議するために、小田原市学区審議会を開催します。

### 2 「小田原市学区審議会」について

#### (1) 審議する内容

- ア 統合を前提とした中学校区の変更
- イ 指定変更許可基準の見直し

#### (2) 委員の人数

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| ア 公募による者           | 2名    |
| イ 市立小学校及び中学校の校長代表  | 2名    |
| ウ 市立小学校及び中学校のPTA代表 | 2名    |
| エ 住民組織の代表          | 3名    |
| オ 学識経験者            | 2名    |
|                    | 計 11名 |

#### (3) 期間

平成20年10月下旬から平成20年11月中旬まで（予定）

#### (4) 開催回数

3回（予定）

史跡小田原城跡馬出門櫛形 門・土塀整備事業の進ちよく状況について

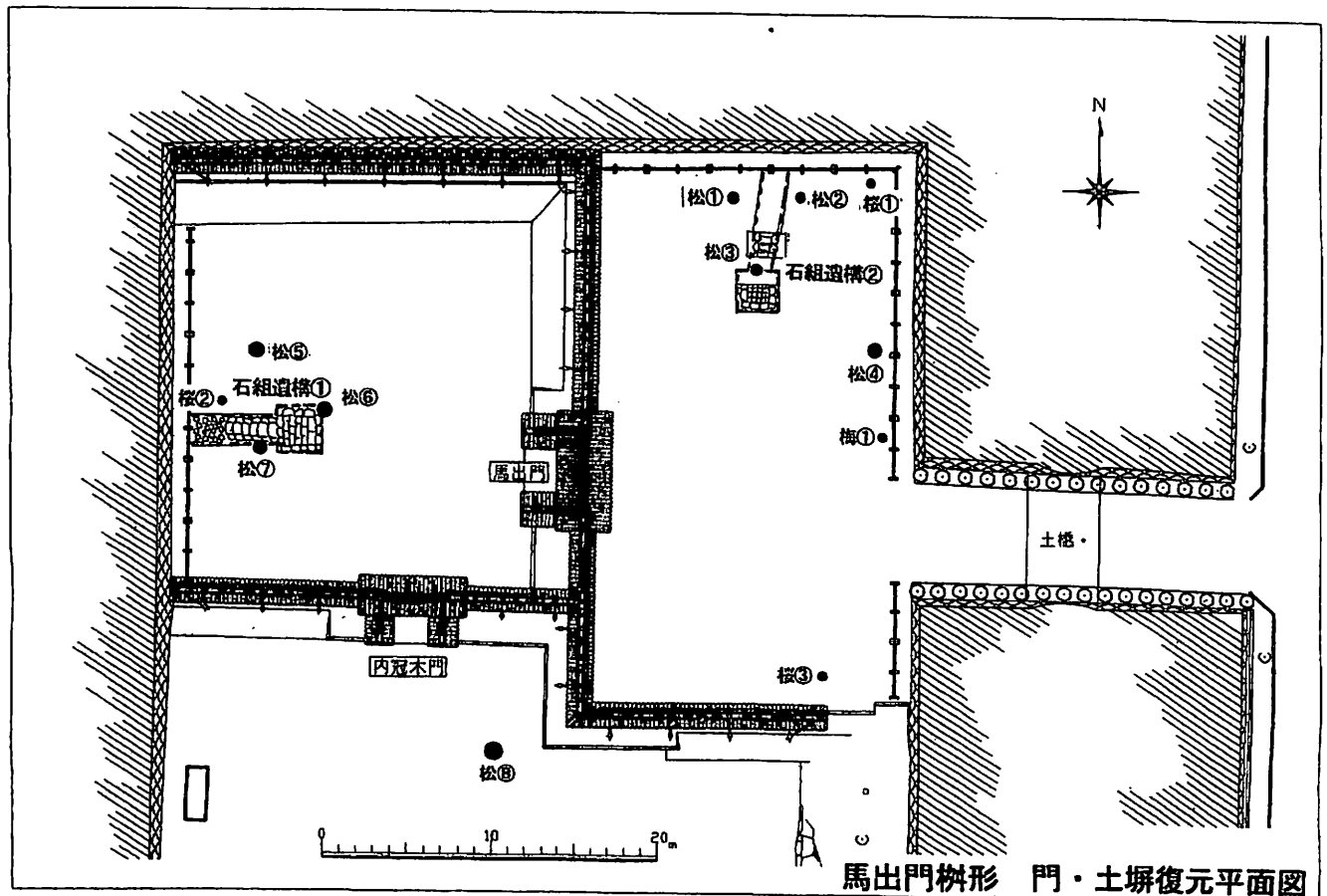
事業概要

史跡小田原城跡馬出門櫛形 門・土塀整備事業については、本体工事が平成19年10月10日から行われ、門扉等の設置工事が平成20年5月29日から行われており、それぞれ平成21年3月30日には完成する予定となっております。

工事はどちらも株式会社田中組が請け負い、契約金額は本体工事が183,750千円 門扉等設置工事が42,420千円となっております。

工程表

	平成19年度						平成20年度												
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
準備工事	■											■							
石・木工事				■															
左官工事							■ 土作り					■ 現場塗込み							
屋根工事													■						
門扉建築工事												■ 工場加工					■ 現場組建		
周辺整備																		■	



## 市民見学

市主催の見学会をはじめ下記の市民グループ等による見学会が開催され、多くの市民が整備の進捗を見守っています。

- 6月12日 市民グループ 約20名
- 6月19日 建青会 約50名
- 6月28日 市民見学会 約100名
- 6月28日 小田原建築士会 約30名
- 7月31日 市民グループ 約50名
- 8月4日 市PTA連絡協議会 約140名（うち子供80名）



市民見学会の様子

## 土塀の構造

馬出門の整備は、発掘調査や古絵図の検討などから導き出された江戸時代の姿に忠実に復元するというもので、大工、瓦師、左官などの職人の匠の業が発揮されています。塀は柱と柱の間に「小舞（こまい）」と呼ばれる竹に藁（わら）縄を巻きつけたものを格子状に組み、これに藁を混ぜ込んで発酵させた粘土（壁土）を塗りつける日本古来の伝統的な工法により造られています。土塀の土は下塗り、中塗り、さらに仕上げに石灰を基にした漆喰（しっくい）によって、白く塗り、仕上げを行います。土塀は完成までに合計7回も壁を塗っては乾かすという大変手間のかかる作業が進められています。



竹に藁を巻きつけた小舞



土塀の荒壁塗りの様子

## 今後の予定

今後は、12月まで土塀の左官工事が続き、来年1月には門扉を設置し、その後、土塁の芝張りや周辺の整備を行い、馬出門土橋（めがね橋）の補強のための仮設を取り外し、3月下旬には工事を全て完了する予定です。

## 馬出門整備の課題

馬出門が完成することで、江戸時代の小田原城の二の丸大手口の門がよみがえることとなりますが、課題として残るものは、櫓形内部や周囲の高木です。

工事が進むにつれ、市民や城郭整備の専門家から、石垣や貴重な地下遺構、復元建物を破壊しか

ねないこれらの高木を整理すべきとの意見が寄せられています。

こうした提言なども踏まえ、小田原市教育委員会としては、馬出門の樹木について、文化財や植物の専門家とも相談しながら、次の方針を立てて整理を進めたいと考えています。

馬出門櫓形内部や馬出門手前の松は、その根が地下に残された貴重な文化財である石組遺構を破壊しています。また、内冠木門を出た左の松は、復元した馬出門や石垣に近接しているため、それらを破損させる恐れがあります。こうした地下遺構や復元建物に直接的に悪影響を与える樹木については、伐採を検討せざるを得ません。また、馬出門土橋北側の松と桜については、石垣の際にあり長い間には根の成長が石垣の崩落の原因になりますが、当面は桜はそのままに、松は枝打ちをして残し、経年観察を続けます。

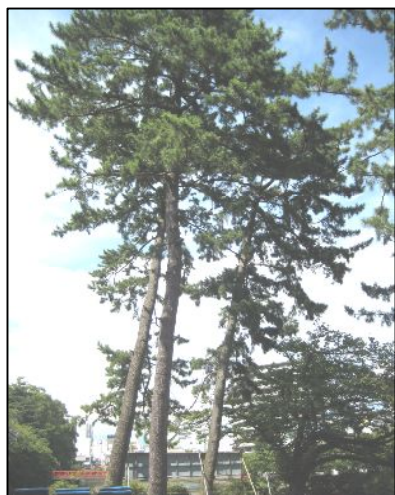
これらの樹木はいずれもお城が廃止された後、様々な目的で土地利用される中で、多くは関東大震災後に植えられたり、自然に生長したものです。このため史跡として復元整備を進める中でこうした後世に繁茂した樹木の一定の整理は避けて通れません。平成20年3月に史跡小田原城跡調査・整備委員会から「史跡小田原城跡本丸・二の丸植栽管理指針」が提言され、城址公園内の樹木を史跡として本来あるべき植栽に戻すことや大手筋からの眺望の確保が重要課題として指摘されていることから、これからも市民の皆さんのご理解とご協力をいただきながら史跡の保全と適切な樹木の管理の両立を図っていきたいと考えています。



石組遺構①を破壊する松の根



石組遺構②を破壊する松の根



馬出門櫓形手前の松 (南から 松①～③)



馬出門櫓形内部の松 (東から 松⑤～⑦)